

帝京大学は、一人ひとりの教職員が仕事と子育てを両立させることができる働きやすい環境を整備するために、「一般事業主行動計画」を策定しています。平成26(2014)年9月1日より「第3期計画期間」に入り、今まで以上に仕事と生活の調和がとれた働きやすい雇用環境の整備を目指して、女性医師・研究者支援センターも行動します。

### 学校法人 帝京大学 一般事業主行動計画

教職員一人ひとりが仕事と生活の調和を図り、働きやすい雇用環境の整備を行うため、次のように行動計画を策定する。

1. 計画期間 平成26(2014)年9月1日～平成29(2017)年3月31日までの2年7か月間

2. 内容 目標 1. 男女共同参画推進に対する教職員の意識向上・啓発を行う。

【対策】平成26年9月～ ホームページ、女性医師・研究者支援センターリーフレット、ニュースレター等を通じて、男女共同参画についての各種情報の提供を行う。  
平成26年9月～ 教職員対象に男女共同参画についてのシンポジウム・セミナーを実施し、理解を深める。

目標 2. 妊娠・出産・育児に関する諸制度の周知・情報提供を行う。

【対策】平成26年9月～ 妊娠・出産・育児に関する諸制度の情報を入手しやすいようホームページを充実させ、女性医師・研究者支援センターリーフレット、ニュースレター等で周知する。

目標 3. 計画期間内に、育児休業の取得率を次の水準以上にする。

男性教職員・・・計画期間中に3人以上取得すること。  
女性教職員・・・取得率をひきつづき80%以上にすること。  
【対策】平成26年9月～ 男性教職員も育児休業を取得できることを書面により教職員へ周知する。  
産前産後休業を取得する女性教職員に対して育児休業制度の内容を個別に説明をする。

目標 4. ベビーシッターサービスを利用しやすい環境を整える。

【対策】平成26年9月～ こども未来財団「ベビーシッター育成支援事業」の導入を検討する。

## TOPICS

### CONGRATULATIONS!!

メンティーが最優秀演題賞、当センター研究員が奨励賞を受賞!

2014年5月15日～17日、第61回学術集会日本麻酔科学会が開催され、女性センターのメンター制度を活用し指導を受けている加藤有紀先生(2014年3月末まで帝京大学国際教育研究所助手に在籍、現在、埼玉病院麻酔科)が、「女性医師における妊娠・出産期の離職経験が及ぼす認定医・専門医の取得への影響」にて最優秀演題賞を受賞しました。また、7月12日～13日に第55回日本社会医学学会が名古屋において開催され、当センターの竹内真純研究員が「質的研究による女性放射線腫瘍科医の自己実現に向けた促進要因と抑制要因の解明」にて奨励賞を受賞しました。



ホームページが新しくなりました!

帝京大学 女性

検索

または、

[http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/support\\_center/](http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/support_center/) で検索してください。

お問い合わせ先 帝京大学女性医師・研究者支援センター 〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1 病院棟6階

Tel. 03-3964-8456 / Fax. 03-3964-8457 / E-mail: women@med.teikyo-u.ac.jp

開室曜日・時間: 月～金 9:00-17:00

※掲載情報は2014年10月現在のものです。編集:堀江 早希

# 帝京大学女性医師・研究者 支援センター NEWS

Teikyo University Support Center for Women  
Physicians and Researchers

vol.03



## 帝京大学男女共同 参画シンポジウムを開催

2014年8月30日、帝京大学板橋キャンパスにて、帝京大学男女共同参画シンポジウムを開催いたしました。

同時期に「女性研究者研究活動支援事業」に採択された3大学の取り組みをメインテーマとし、基調講演として東京医科大学の久保保子先生と宇都宮大学の良香織先生にご講演いただきました。また、昨年度当センターが実施した育児ニーズ等に関するアンケート調査結果を、研究員の竹内真純が報告いたしました。

沖永寛子センター長の開会の挨拶に始まり、久保先生は大学院生や若手研究者を対象としたキャリアデザイン研修会等の意識啓発活動や、多様な職員を活かす職場(ダイバーシティ)の重要性について、良先生は「男女共同参画」と「ジェンダー」の関係や地域との絆、連携についてご講演されました。さらに、竹内研究員より教員のワークライフバランスやハラスメントの影響等の分析結果を報告しました。総括として当センター野村恭子室長が、研究環境の整備や関係各所への働きかけを今後も継続していくことの重要性について述べました。

最後に沖永佳史帝京大学理事長より閉会の挨拶を行い、盛況のうちにシンポジウムは閉幕いたしました。フロアの参加者からは積極的に質問が出され、学内外から様々な分野の方々にお越しいただき、シンポジウム後の昼食会でも和やかな交流が行われ、実りあるシンポジウムとなりました。

### シンポジウム概要

#### 帝京大学男女共同参画シンポジウム

「女性研究者研究活動支援事業」に採択された3大学の取り組み～それぞれのオリジナリティと今後の連携について～

日時: 2014年8月30日(土) 10時～12時20分  
場所: 帝京大学板橋キャンパス 本部棟4階会議室1

#### 開会の挨拶

沖永寛子帝京大学常務理事(帝京大学女性医師・研究者支援センター長)

#### 基調講演 1

「東京医科大学医師・学生・研究者支援センターにおける取り組みについて」  
久保保子先生(東京医科大学医師・学生・研究者支援センター長)

#### 基調講演 2

「宇都宮大学における男女共同参画の取り組みについて」  
良香織先生(宇都宮大学女性研究者キャリア支援室副室長)

#### 報告

「保育ニーズ・ワークライフバランス・ハラスメントに関するアンケート調査結果」  
竹内真純研究員(帝京大学女性医師・研究者支援センター)

#### 総括

野村恭子室長(帝京大学女性医師・研究者支援センター)

#### 閉会の挨拶

沖永佳史帝京大学理事長(帝京大学学長)

特集

# 「保育ニーズ・ワークライフバランス・ハラスメントに関するアンケート調査」結果報告

2014年2～3月に実施しました、「保育ニーズ・ワークライフバランス・ハラスメントに関するアンケート調査」の結果をご報告いたします。

お忙しい中、多くの教職員の方にご協力いただき、ありがとうございました。このアンケートで得られた結果を、今後の当センターの活動に生かし、ますますの支援活動を行ってまいります。

こちらに掲載されたものは結果の一部になります。その他の結果については、当センターのホームページをご覧ください。

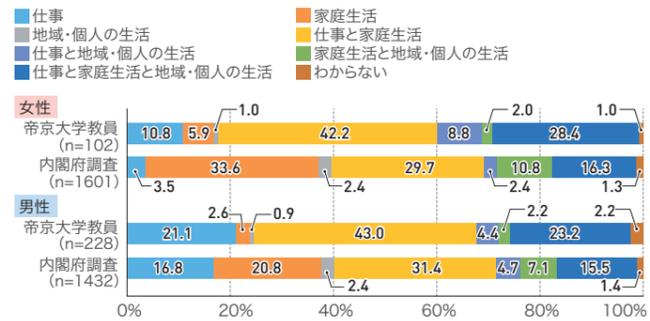
([http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/childcareneeds\\_questionary20141009.pdf](http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/childcareneeds_questionary20141009.pdf))

## ▶ Q1

生活の中での「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」の優先度について伺います。

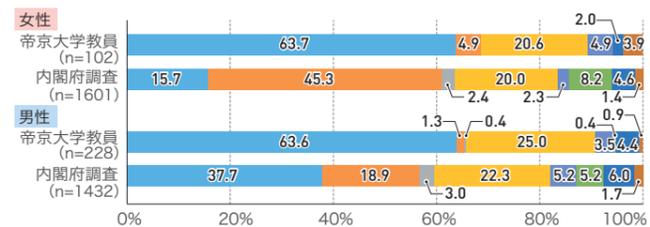
※平成23年度内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」と結果を比較しました。

(1)「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」のうち、何を優先したいですか。あなたの希望に最も近いものを1つお答えください。



内閣府の行った全国調査と比較すると、女性も男性も仕事を優先したい人、仕事と家庭生活や地域・個人の生活を両立させたい人が多く、家庭生活、地域・個人の生活を優先させたい人は少なかった。

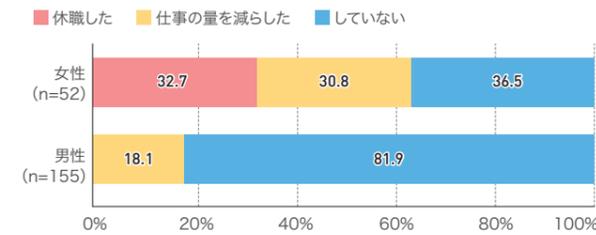
(2)「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」のうち、現実(現状)では何を優先していますか。あなたの現実(現状)に最も近いものを1つお答えください。



内閣府調査と比較して、仕事を優先している人が多く、家庭生活、地域・個人の生活を優先している人は少なかった。希望と現実を比較すると、希望としては仕事と家庭生活や地域・個人の生活を両立を希望しているものの、現実には仕事を優先している人が多かった。

## ▶ Q2

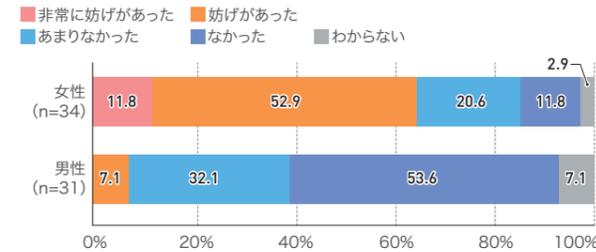
(子どもがいる人に)子どもが小さいとき、育児のために休職したり、仕事の量を減らしたりしましたか。(休職には育児休暇を含む)



女性は「休職した」「仕事の量を減らした」「そういうことをしていない」が、ほぼ3分の1ずつだった。男性は「していない」が8割以上、「仕事の量を減らした」が2割弱と、男性への育児休暇の普及率の低さが示唆された。

## ▶ Q3

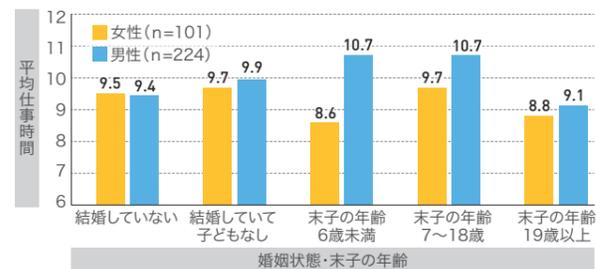
(休職したり、仕事の量を減らした人に)そのことによって、キャリアに妨げがあったと思いますか。



女性の6割以上が、育児のために休職や仕事の量を減らしたことによって、キャリアに妨げがあったと答えていた。育児による休業や仕事量の調整がキャリアの妨げにならないような支援が望まれる。

## ▶ Q4

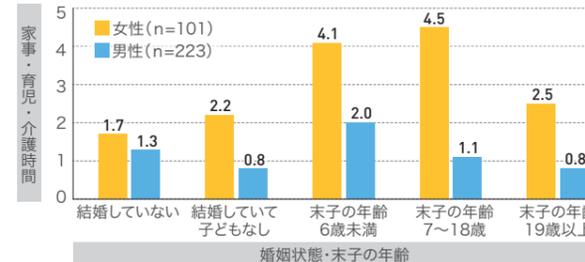
あなたの平日の仕事時間は、平均で何時間くらいですか。



回答者を「結婚していない」「結婚していて子どもなし」「6歳未満の子もあり」「末子が7～18歳」「末子が19歳以上」に分類した。平均仕事時間は女性9.2時間、男性9.8時間。6歳未満の子がいる場合、女性の仕事時間が男性と比べて短かった。

## ▶ Q5

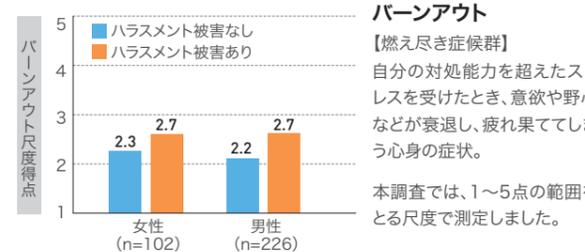
あなたの平日の家庭労働の時間(家事・育児・介護)は、平均で何時間くらいですか。



平均家庭労働時間は女性2.7時間、男性1.1時間。結婚している場合、子どもの有無、年齢に関わらず、女性は男性より家庭労働時間が長かった。特に18歳以下の子どもがいる場合、女性の家庭労働時間は4時間以上と長かった。

## ▶ Q6

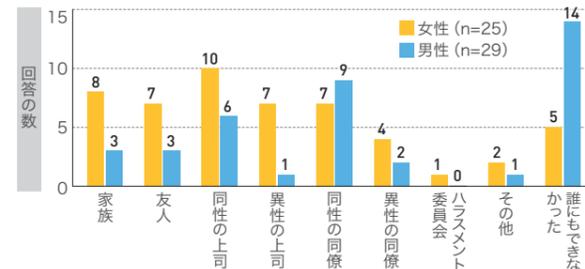
ハラスメント被害とバーンアウト



ハラスメントの被害経験がある人のほうが、バーンアウト傾向が強かった。ハラスメントが被害者の労働意欲や精神的健康を悪化させていることが示され、被害者への支援・対策が望まれる。

## ▶ Q7

ハラスメント被害後の相談相手(複数回答)



男女とも、同性の上司や同僚に相談した人が多かった。男性では誰にも相談できなかったという人も半数近くいた。ハラスメント委員会等、学内の組織に相談した人は少なかった。

## 第27回バイオメディカル分析科学シンポジウム・セッション 男女共同参画シンポジウム『女性研究者の活動について』

2014年8月20・21日、日本薬学会物理系薬学部会主催第27回バイオメディカル分析科学シンポジウムが、帝京大学板橋キャンパスにおいて行われました。セッションのひとつとして、当センターも共催する男女共同参画シンポジウム『女性研究者の活動について』も開催。主に女性研究者および共に活動する男性研究者がご講演され、金澤秀子先生(慶應義塾大学)、平嶋尚英先生(名古屋市立大学)、秋元文先生(東京大学)、細山田真先生・楯直子先生・野村恭子先生(帝京大学)より、女性でも研究を続ける意志を持つことの大切さや職場環境の整備について力強いメッセージが発信されました。また薬学部関係の方が多く、妊娠中は実験において避けなければならない薬品があるなど、薬学部における女性研究者のご苦勞が伺える機会でもありました。



### シンポジウム概要

日時：2014年8月21日(木)午後1時～4時  
場所：帝京大学板橋キャンパス 大学棟本館205号講義室  
オーガナイザー：金澤秀子先生(慶應義塾大学) 金子希代子先生(帝京大学)

- 「楽しい研究 一意あるところに道は拓ける」金澤秀子先生(慶應義塾大学)
- 「帝京大学女性医師・研究者支援センターの取組み」野村恭子先生(帝京大学)
- 「女性研究者(の卵)へ」平嶋尚英先生(名古屋市立大学)
- 「2歳の育児を抱えながら行う研究活動の現状」秋元文先生(東京大学)
- 「パートナーの立場から」細山田真先生(帝京大学)
- 「物理化学分野の女性研究者の活動について」楯直子先生(帝京大学)

### 「女性医師が働きやすい病院」職場環境尺度の開発

女性医師がライフイベントに遭遇しても、仕事と性別役割分業を両立できる環境について「保育支援」、「労働基準法に遵守した働き方」、「組織のリーダーシップ」、「柔軟性のある働き方」、など36項目の質問票を作成。各項目の必要度について調査し、因子分析を行いました。「女性医師が働きやすい病院」の構成概念として、『男女共同参画への組織的な取り組み』、『ライフイベントと仕事の両立』、『保育体制の整備』、『介護休暇・男性の育児休暇』、『柔軟な勤務形態』と因子を命名し、5因子30項目からなる尺度が得られました。